

石巻・大川小

遺族指摘のしぐさ  
「個人特定を制止」

教育長

東日本大震災で多数の

児童らが犠牲となった石巻市大川小の児童の遺族と市教委との会合で、担当課長が職員に向け口に指を当てるしぐさをしたことをめぐり、境直彦教育長は20日、「個人名を特定する職員の発言があり、言うっては駄目だということだった」と述べた。遺族側は「隠蔽(いんぺい)を思わせる行為だ」と問題視していた。市議会9月定例会で一般質問に答えた。

境教育長によると、8月にあった会合で職員が児童の名前を遺族に尋ねる場面があり、担当課長が口に指を当てる職員の

発言を止めようとした。境教育長は「逆に変な思いを皆さんに抱かせてしまった。声に出して言うべきだった」と話した。

遺族有志は今年11日、やりとりを撮影したDVDを文部科学省に提出し、国の積極的な対応を求めた。担当課長は「考え事をしているときの自分の癖ではないか。隠蔽の意図はない」と取材に答えていた。